

年頭のごあいさつ



明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、人口減少や少子高齢化、物価の上昇など、地域社会に大きな影響を及ぼす課題がより顕在化した一年でありました。

一方で、デジタル技術の進展や働き方の多様化など新たな可能性も見え始め、社会全体が変化の中にあることを強く実感した年でもありました。

当町におきましては、新町発足70周年の節目の年として、皆さまと共に町の歩みを振り返り、未来への希望を共有できたことを大変うれしく思います。また、気候変動による異常気象や自然災害も多発し、防災対策の重要性が再確認されました。夏には記録的な猛暑となるなど、日本各地で異常気象が顕著になり、自然災害への意識も高まりました。

併せて、米を巡る混乱やクマ被害の拡大など、新たな社会の課題も浮き彫りになっています。

令和7年は、過去を学び、現在を見つめ、未来を考える上で、非常に示唆に富む一年だったと言えるのではないのでしょうか。

こうした時代の流れの中で、当町におきましても、住民一人ひとりの暮らしを守り、将来にわたって安心して暮らせるまちづくりを進めるため、様々な施策に取り組んでまいりました。福祉や子育て支援、地域産業の振興、防災・減災対策など、町民の皆さまの声を大切にしながら、丁寧にして着実に事業を進めてまいります。

また、年末にかけて嬉しいニュースが立て続けに舞い込みました。11月には、ふるさと納税未来創造アワードにおいて、ふるさと納税の使い道が優れた取り組みであると評価され「安心と備えのまちづくり賞」を受賞し、第66回県民謡王座決定戦では、芳賀清さんが見事優勝され、民謡王座に輝きました。12月には、第25回ふるさとCM大賞において、当町の作品がグランプリを受賞することができました。

さらに、大石田中学校の卒業生でもある山形東高校2年の東海林あやさんが、第40回全国高校文芸コンクールの俳句部門で、最優秀賞に輝き、京都市で開催された全国高校駅伝では、学法石川高校3年の保芦摩比呂さんが6区を区間2位という好タイムで力走し、同校初の全国優勝、かつ大会新記録に大きく貢献されました。今後も多く町の民、子どもたちが、この結果に続いていけるよう様々な支援を行ってまいります。

「大人が自信を持って次世代にタスキをつなげられる町」にしていくことが私の使命だと考えております。そのためには、「住み続けたい」、「住んでみたい」と思っていただけよう、町民の皆さまと一緒にまちづくりを進めてまいる所存でありますので、引き続き皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって素晴らしい年になりますようお祈り申し上げ、年頭の挨拶いたします。

大石田町長 庄司 中